

日本医学会分科会活動報告

公益社団法人 日本リハビリテーション医学会
理事長 久保 俊一

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
 - a. 特に学術的に重要と考えられるもの
過去5年間（平成28年度から令和2年度）に、公益社団法人として定款に沿って、学術集会開催、会誌発行の事業を実施した。また、教育及び研修として、卒後実習研修会、病態別実践リハビリテーション医学研修会を実施している。
 - (1) 学術集会の開催
 - (2) 会誌の発行
 - (3) 英文誌「Progress in Rehabilitation Medicine」の発行
 - (4) 教育及び研修
 - 1) 卒後実習研修会
 - 2) 病態別実践リハビリテーション医学研修会
 - 3) 急性期・回復期リハビリテーション医師研修会
 - 4) 生涯教育研修会
 - (5) e-learning の開講
 - (6) テキストの監修
 - (7) リハビリテーション医学・医療用語集第8版の編集
 - b. 当該領域における国際的な役割
 - (1) 若手研究者への海外研修補助と外国人リハビリテーション科医への短期交流研修補助
 - (2) 国際リハビリテーション医学会世界会議2019（ISPRM2019）を開催した。
（日時：2019年6月9日（日）～13日（木） 会場：神戸コンベンションセンター）
 - (3) 国際誌 Progress in Rehabilitation（PRM 誌）が2020年5月にPMC-PubMedの収載審査を通過、10月にPubMed収載誌となった。
PMC-PubMedに創刊以来すべての掲載論文が収載され、国際レベルの検索対象となった。2020年は31編の論文を公表した。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

急性期から生活期まで幅広いリハビリテーション医学・医療の質の向上と標準化（標準的医療としての確立）による社会への貢献は重要であり、その目的に資するために、テキストの作成、広報誌の出版、市民公開講座の開催をしている。また、医育機関におけるリハビリテーション医学の卒前・卒後教育に資するため、全国医学部リハビリテーション科連絡会を開催している。

- (1) 広報誌の発行
- (2) 市民公開講座の開催
- (3) 全国医学部リハビリテーション科連絡会の開催

d. 学会運営上留意している点

以下の5点に取り組むことに留意している。

- (1) リハビリテーション医学・医療の意義
- (2) 疾患・領域別リハビリテーション医学・医療の連携、サブスペシャリティ学術団体の設立、リハビリテーション関連専門職に対する貢献
- (3) 特定機能病院、地域包括ケアシステム、地域医療構想に果たす役割
- (4) リハビリテーション医学の卒前・卒後教育
- (5) リハビリテーション医学研究の推進

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

春と秋の日本リハビリテーション医学会学術集会などで、他の分科会と合同シンポジウムなどを積極的に行っている。